

留学生交流・指導研究

Journal of International Student Advisors and Educators

Volume

28

2025

COISAN

Council of International Student Advisors of National Universities

国立大学留学生指導研究協議会

留学生交流・指導研究

Journal of International Student Advisors and Educators

Volume

28

2025

COISAN

Council of International Student Advisors of National Universities

国立大学留学生指導研究協議会

留学生交流・指導研究

Journal of International Student Advisors and Educators

Volume 28/ 2025

はじめに 5

■ 特別寄稿

国立大学の留学生受入・支援、その先へ

—4 大学による入国・教育・出口の可視化—

伊藤健一・瀬尾匡輝・村上和弘・米本和弘 9

■ 投稿論文

【研究論文】

・大学生の韓国語短期研修に対する捉え方：

COVID-19 感染拡大前、感染拡大中、感染拡大収束後の 3 フェーズの研修後のレポートの比較

石鍋 浩・安 龍洙・松田勇一 29

・中国人留学生は日本で働くことをどのように選択するのか

—人間適応的視点による一考察—

佐藤幸代・門間由記子 43

【研究ノート】

・留学生支援再考

— 留学生支援の位置づけの変化を踏まえた一考察 —

大西晶子 57

【実践報告】

・日本の高等教育機関における留学生の在籍状況確認調査の意義と課題

安 婷婷 71

・留学生寮運営におけるオンラインツール Slack 活用の実践

— 対面支援との補完を模索する取り組み —

市島佑起子 85

・避難所での情報を「やさしい日本語」に書き換えることへの日本人学生の取り組みと受けとめ

—留学生との学び合いを通して—

岡野靖子 99

【書評】

・『留学生アドバイザー学習・生活・心理をいかに支援するか—』

横田雅弘・白土悟（ナカニシヤ出版、2004、376 ページ、3,500 円＋税）村山かなえ 115

投稿論文英文要旨 119

■ 報告

【第 14 回留学生交流・指導研究会報告】

研究会報告 129

実践報告 1：インターンシップにおける外国人留学生の学びと課題

—東北大学キャリア支援室での取り組みから— 門間由記子・王 潔 131

研究発表 1：転換期における日本の大学の留学生受け入れ

—受け入れ環境の整備に向けての理念的整理—

大西晶子 133

研究発表 2：留学生支援業務に従事する学生スタッフの経験と学び

—PAC 分析と SCAT を用いた質的事例研究— 渡部留美・市島佑起子 135

【2025 年度研究協議会報告】

2025 年度国立大学法人留学生指導研究協議会

兼 第 59 回大阪大学留学生教育・支援協議会 139

おしゃべり会 143

付 録 145

 国立大学留学生指導研究協議会 規約、令和 7 年度（2025 年度）役員、入会案内、
 入会申込書、『留学生交流・指導研究』第 29 号投稿規程・編集規程、
 『留学生交流・指導研究』第 29 号投稿規程・編集規程（英文）

編集後記 165

はじめに

『留学生交流・指導研究』28号発刊によせて

有川 友子

COISAN 代表幹事
(大阪大学国際機構長)

この度、COISAN ジャーナル『留学生交流・指導研究』28号をお届けいたします。本号には特別寄稿1本、研究論文2本、研究ノート1本、実践報告3本、書評1本が掲載されていますが、いずれも重要なテーマについて、多角的なアプローチからの論文・報告等です。

具体的には、4つの大学における教育支援の実績を踏まえた国立大学の留学生受け入れ・支援、その先を見据えた特別寄稿、日本に学び就職する留学生、コロナ禍の前後での海外短期研修の捉え方の変化、留学生支援の位置付けの変化を踏まえた考察、留学生の在籍状況確認調査の意義と課題、留学生寮運営における対面支援の補完を模索するオンラインツールの活用の取組、「やさしい日本語」についての留学生と一般学生との取り組みと学び、留学生アドバイジングと多岐にわたっています。

本号が読者の皆様の留学生教育や留学生に関係する研究、また現場での留学生や国際に関わる各種活動に参考となれば幸いです。

最後になりますが、本号に投稿いただいた先生方、査読にご協力いただいた先生方、編集委員会の先生方に大変お世話になりました。心より御礼申し上げます。

2025年度 留学生交流・指導 研究会報告

第14回留学生交流・指導研究会報告

日時：2026年2月5日（木）・6日（金）

於：大阪大学（吹田キャンパス）ハイレックス開催

本研究会は、COISAN 会員が日頃、留学生のアドバイジング業務や留学生教育に従事するなかで直面している課題について、会員同士が直接顔を合わせながら情報やノウハウを共有するとともに、留学生アドバイジングに関連する教育実践や研究成果を発表する場として、2013 年より年 1 回開催している。2023 年以降は、対面とオンラインを併用したハイレックス形式で実施している。

第 14 回研究会では、2 月 5 日午後に行われた国立大学法人留学生指導研究協議会に先立ち、ランチ交流会を開催した。翌日の午前には、会員による実践報告・研究発表およびケースカンファレンスの場を設けた。ランチ交流会には 14 名、実践報告・研究発表には 47 名（うちオンライン参加 20 名）が参加した。以下にその概要を報告する。

ランチ交流会では、和やかな雰囲気の中で参加者同士が交流し、アイスブレイク活動を通じて親睦を深めることができた。参加者からは、初参加でも話しやすく多様な立場の人と交流できたことや、国際関連業務に携わる者同士として、日々抱えている悩みを共有でき心強かったこと、ゆっくり落ち着いて話せて有意義だったことなど、前向きな意見が多く寄せられた。

2 日目（2 月 6 日）は、第一部として 3 件の実践報告・研究発表から始まった。実践報告 1 では、門間会員と王氏が「インターンシップにおける外国人留学生の学びと課題」と題し、外国人留学生を対象としたキャリア実習・インターンシップの成果を紹介した。続く研究発表 1 では、大西会員が「転換期における日本の大学の留学生受入れ—受入れ環境の整備に向けての理念的整理—」と題して、授業料設定の自由化を背景とした日本の留学生受入れの理念的転換について述べた。研究発表 2 では、渡部会員と市島会員が「留学生支援業務に従事する学生スタッフの経験と学び—PAC 分析と SCAT を用いた質的事例研究—」と題し、留学生支援に携わる国内学生スタッフへのインタビューを通して、支援活動から得られる学びや成長の特徴を示した。

続く第 2 部では、ケースカンファレンスとして、宇塚会員より「留学生同士のトラブルの深刻化を未然に防ぐには」と題し、実際に発生したケースをもとにした事例検討が行われた。本セッションは会員限定で実施され、オンライン配信は行わず、現地参加者によるクローズドな形で進められた。取り上げられた事例をもとに、参加者はトラブルの背景や要因の整理、問題が深刻化する過程、対応の選択肢、予防的な支援体制などについて多角的に議論した。

本研究会終了後に実施した参加者アンケートでは、発表内容・運営・ケースカンファレンスに関して多くの肯定的な意見が寄せられた。発表内容については、留学生受入れの最新動向や国際比較、各大学の実践、学生スタッフによる支援のあり方など、多角的な視点から学びの機会となったとの

声が多く寄せられた。「長年の疑問が整理された」「自大学で取り組もうとしていた施策の効果や課題を学ぶことができた」「発表に深さがあり、多面的な視点を得られた」など、研究・実務の両面で参考になったという意見が目立った。

また、実際に起こったケースを扱ったケースカンファレンスについても、実際の事例であるからこそ、各大学で起こり得る状況を具体的にイメージしながら検討することができ、活発な意見交換が行われたとの声が多く寄せられた。このケースカンファレンスは、国立大学で留学生支援に携わる教職員が、現場で直面する課題を共有し、経験を持ち寄りながら支援のあり方を深く考えることができる、COISAN ならではの有意義な場となっている。

さらに、研究会全体を通して、「ここから新たな連携や共同研究が生まれることへの期待」や、「他大学と共同でケーススタディを行うとさらにおもしろい」といった意見もみられ、COISAN のネットワークを活かした交流・連携への期待の高さがうかがえた。

総じて、アンケートには「多様な視点を得られた」「実務に活かせる具体的な学びが多かった」「この場に参加できること自体が貴重」といった肯定的な声が寄せられ、本研究会が留学生支援に携わる教職員にとって、引き続き重要な学びと交流の場となっていることが確認できた。

第 14 回留学生交流・指導研究会プログラム

2026 年 2 月 5 日（木）

■ランチ交流会

2025 年 2 月 6 日（金）

■実践報告 1 「インターンシップにおける外国人留学生の学びと課題」

門間 由記子（東北大学）・王 潔（東北大学）

■研究発表 1 「転換期における日本の大学の留学生受け入れ

—受け入れ環境の整備に向けての理念的整理—

大西 晶子（東京大学）

■研究発表 2 「留学生支援業務に従事する学生スタッフの経験と学び

—PAC 分析と SCAT を用いた質的事例研究—

渡部 留美（東北大学）・市島 佑起子（鹿児島大学）

第 14 回研究会企画・運営班（50 音順）

伊藤健一（宮崎大学）・瀬尾匡輝（茨城大学）・園田智子（東京大学）・趙丹寧（埼玉大学）・
中野遼子（近畿大学）・米本和弘（東京学芸大学）

実践報告 1：インターンシップにおける外国人留学生の学びと課題

ー東北大学キャリア支援室での取り組みからー

発 表 者：門間 由記子（東北大学バリューデザイン教育センター）

王 潔（東北大学キャリア・社会連携支援センター）

1. 問題の所在

日本でのキャリア形成を希望する外国人留学生にとって、インターンシップは企業・業界理解を深める重要な機会と位置付けられている。文部科学省の「留学生就職促進教育プログラム認定制度」においても、インターンシップはキャリア教育、日本語教育と並ぶ中核的施策である。しかしながら、留学生向けインターンシップが実際にどのような学習機会として機能し、就職意識や理解形成にどのような影響を及ぼしているのかについては、十分な検証がなされているとは言い難い。本報告は、東北大学キャリア支援室が実施したインターンシップ・マッチング事業を対象に、参加学生へのアンケート調査ならびにインタビュー調査を通じてその教育的効果と課題を検討するものである。

2. 調査概要

2025 年夏季に実施したインターンシップでは、外国人留学生 21 名と受入企業 11 社をマッチングした。参加学生を対象に①インターンシップに参加してみてもの満足度（6 段階評価）、②満足度の理由、③インターンシップ期間中に困ったことの有無、④困ったことの詳細、⑤インターンシップ参加期間中にサポートが欲しかったことの有無、⑥サポートが欲しかったことの詳細、⑦インターンシップ参加前に必要だと考えるセミナーなど、等の質問を実施した。回答者のうち協力意向を示した 8 名に対し、さらに半構造化インタビューを実施し、参加目的、日本企業観の変化、日本での就職意識の変容、成長実感等について質的データを収集した。

3. 結果

アンケートでは、「とても満足」13 名、「満足」5 名と高い評価が示された。インターンシップ参加後、課題解決に主体的に取り組む日本企業に対する評価は肯定的な方向へ変化し、日本での就職意欲の向上が認められた。さらにヒアリング結果からは、主に以下の三点が確認された。第一に、日本企業に対するイメージの変化である。参加前には「堅い」「残業が多い」といった固定的認識がみられたが、参加後には「温かい雰囲気」「育成を重視」といった具体的かつ多面的理解へと変化していた。第二に、日本での就職意欲の向上である。企業の実態を体験的に理解することで不安が軽減され、日本で働くことへの自己効力感が高まる傾向が確認された。また、新卒一括採用制度や就職活動スケジュールに関する理解も深化していた。第三に、日本特有の職場文化への理解促進である。上下関係、集団協働、理念共有、配置転換を前提とした育成慣行などへの気づきが多く示された。これらは日本人学生よりも文化差を意識しやすい留学生特有の学習内容である可能性が示

唆される。一方で、短期間のプログラムでは採用選考との直接的接続が弱いとの指摘もあった。企業からは、受入経験を通じて留学生向け長期育成の必要性を認識したとの声があった。留学生と日本人学生では経験やキャリアパスが異なるため、一律の基準ではなく特性に応じた制度設計が必要であるとの指摘があった。また、海外事業の有無にかかわらず活躍できるポジションの設置可能性が示され、語学力に加えマーケティングやデータ分析等の専門性への期待も明らかになった。さらに、高度外国人材に対応した給与体系整備の必要性も認識された。

4. 考察

本研究の結果、留学生向けインターンシップは採用に直結する施策としての即時的効果は限定的である一方、日本企業の雇用慣行や職場文化、働き方に対する〈認知ギャップ〉を調整する理解促進型施策として重要な役割を果たしていることが明らかとなった。留学生は参加前、日本特有の長時間労働や同調圧力といった固定的イメージから不安を抱えていたが、実際の職場に身を置くことで、暗黙の了解やコミュニケーション様式を体験的に理解し、企業理解を具体化させていた。また、日本型インターンシップの目的や位置づけについても参加を通じて再解釈が進み、就職後の働き方をより現実的に捉える視点が形成されていた。同時に、企業側にとっても、外国人材受入れに伴う制度的・心理的ハードルを可視化し、自社の職務設計や評価基準を見直す契機となっていた点は重要である。すなわち、本施策は学生と企業双方の不安を顕在化させ、相互理解を促進する媒介的機能を有していると解釈できる。一方で、短期間の実施形態や評価期間の制約、日本の新卒一括採用慣行との構造的不整合により、採用接続機能は十分とはいえない。今後は、インターンシップの目的と段階を整理した設計モデルの構築、業務内容と到達目標の明確化、フィードバック体制の整備、企業側への伴走的支援の体系化が求められる。さらに、就職後の定着や職務満足との関連を縦断的に検証し、理解促進機能と採用接続機能を統合的に高める実証的枠組みを提示することが今後の課題である。

研究発表 1：転換期における日本の大学の留学生受け入れ

―受け入れ環境の整備に向けての理念的整理―

発表者：大西 晶子（東京大学）

問題と目的

江溯（1991）は、留学生受け入れに関して、受け入れ国が受ける恩恵と留学生教育に要する経費のバランスでは負担の方が大きいとの結論から、1980年代前後には英語圏大学を中心に、留学生に対して現地学生よりも高い授業料を課し、「留学生を高等教育財政安定化のための財源の一つ」と位置付ける顧客モデルへの転換が進んだと述べている。

2024年の文部科学省の省令改正により、日本の国立大学においても、留学生の授業料設定を自由に行うことが可能となったことは、日本における留学生受け入れの理念的転換の象徴的出来事であり、今後受け入れ環境の整備はその前提が大きく変化していくと考えられる。本研究発表においては、諸外国との比較を行いながら日本の状況を整理し、今後に向けた課題を示す。

方法

留学生30万人計画以後の留学生受け入れに関する諸資料を収集し、環境整備に関連する議論や授業料値上げを巡る議論の展開について分析を行った。さらに、豪州・ニュージーランドにおける留学生受け入れ枠組みの特徴を示し、日本の枠組みとの相違について比較を行った。

結果

日本における留学生受け入れの転換

留学生30万人計画開始時には、留学生受け入れは「諸外国の成長を取り込み、日本の発展にかなげる」目的である旨が強調されていたが、次第に「多様な価値観や異文化を持つ学生を受け入れることによる、国内学生の成長」へと、その説明の重点は変化した。また具体的施策においては、「学部段階」の留学生数の増加、「多様な国・地域」からの受け入れ、国内生と留学生の「共修」等が中心的な課題となる一方、留学生の受け入れ後の環境整備は、相対的に関心の低下がみられた。一部の留学プログラム等の有料化は、コロナ禍以前の留学生政策においても言及がなされていたものの、2023年前後からは、国際関連業務の拡大に伴う大学の負担増加への対応策としての位置づけがより明確になった。一方、留学生の授業料値上げが具体化する中では、「留学生固有」のサービスに対して、留学生自身が費用を負担する、つまりは受け入れ環境の整備を「受益者負担」として進める議論へと展開がみられる。

豪州・ニュージーランドにおける留学生受け入れとの比較

顧客モデルによる留学生受け入れの代表国といえる、豪州・ニュージーランドにおいては、留学

生の存在が、大学のみならず社会全体に大きな経済的利益をもたらすことが、留学生政策において強調されている。さらに留学経験全体の満足度を高め、留学先としての評判を維持することは、「留学生のため」に必要であるのみならず、受け入れ大学・国にとっても重要な課題と位置付けられている。受け入れ環境整備に関しては、留学生獲得や留学満足度の向上の手段として議論され、ウェルビーイングやケア、留学生の権利保護や留学生生活の質を高めることを中心に、具体的な施策が検討されている。加えて両国は、留学生の声を聴く仕組みや苦情処理体制等の枠組が国レベルで整備され、枠組に沿った対応を行うことは教育機関の責任とされている。

対する日本では、留学生の授業料値上げは、留学生に対する受け入れ環境整備の負担増に対して、留学生自身に負担を求める旨が示されているが、値上げの根拠や具体的使途についての説明は十分にはない。留学生固有のニーズについての検討や、留学生の声を反映させる仕組みも明らかにされておらず、学生の権利保護や満足度向上を具体化する議論も行われていない。

結論

顧客モデルによる受け入れを行う豪州・ニュージーランドとの枠組の比較によって、日本の大学の課題として、受益者負担を強調しながらも、留学生の満足度向上の視点や権利保護の仕組みに関する議論が不足している点を指摘した。国内生よりも高い授業料の設定は、留学生の大学に対する期待を変化させうるものであり、大学は説明責任をより問われる。国境を超えた学生獲得競争の中で、日本が優秀な学生の受け入れを継続・拡大していくことを目指すのであれば、国際通用性の高い、受け入れ環境の整備にも同時に取り組む必要がある。

江渕一公（1991）「留学生受入れの政策と理念に関する一考察：主要国における政策動向の比較分析から」『大学論集』 pp.35-68

本発表は、JSPS 科研費 22K02362 / 25K00808 を受け実施しました。

研究発表 2：留学生支援業務に従事する学生スタッフの経験と学び

—PAC 分析と SCAT を用いた質的事例研究—

発表者：渡部 留美（東北大学高度教養教育・学生支援機構）

市島 佑起子（鹿児島大学総合教育機構・グローバルセンター）

1 研究の目的と背景

近年、日本の大学において学生が学生を支援するピア・サポート活動が広がりを見せており、留学生支援業務においても多様な学生が支援者として活動している。ピア・サポートには、学生同士であることによる相談のしやすさや、教職員にはない知識や経験を生かした支援が可能であること、学生同士の学び合いの促進、支援学生の様々な能力の獲得機会にもなること等が明らかになっている。一方で、支援を行う学生がその経験を通してどのような気づきや学びを得ているのかという具体的な側面については、十分に明らかにされているとは言い難い。そこで本研究では、留学生支援業務に従事する学生スタッフへの半構造化インタビューのデータをもとに、その語りを質的に分析し、留学生支援活動の経験から見えてくる気づきや学びの特徴について事例的に報告する。

2 研究方法

本研究では、留学生支援業務に従事する国内学生スタッフに対して実施した PAC 分析（個人別態度構造）と、PAC 分析で得られたインタビューの記述をもとに行った SCAT（Steps for Coding and Theorization）という 2 つの質的データ分析手法を用いた。学生スタッフには、PAC 分析に際し、以下の刺激文を提示した。

これまであなたが行ってきた A 大学における留学生支援活動では、どのような支援対象者や支援内容がありましたか。この活動を行うためにどのような能力、経験、心構え（資質）が必要だと思いますか。あなたは活動によってどのような知識が得られ、どのような能力が向上しましたか。支援活動をしたときにどのような感情がわきましたか。また、活動の課題や改善点などがありますか。これらについて頭に浮かんだイメージを言葉や文で書いてください

3 結果

(1) PAC 分析

本研究の問いの一つである「学生スタッフは、どのようなプロセスや経験を経て、知識・能力を得るのか」についてインタビューの記述から以下の語りが抽出された。

（X さんのクラスター「文化の違い、多様性」より）

多様性尊重、その違いを認めることですね。相手がイライラしている時に、イライラしないみたいな、中立を守るみたいなのは結構大事なかなと思います

(Yさんのクラスター「留学生支援のプラス面」より)

自分が企画したゲームのイベントをしたときに、参加者の留学生が楽しいと感想を持ってくれたりとか(中略)自分もそういった楽しさみたいなのを感じながらやっていたと思います

(2) SCAT

Xさんの理論記述(X/Y共に紙幅の関係上、超要約版)

支援業務は、他国の制度を知る機会でもあり、文化差への理解促進、外国人に対する認識の多角化につながり、日本の制度批判への耐性の獲得も助ける

Yさんの理論記述

本活動には、学生支援ならではの良さがあり、スタッフは被支援者の代弁者であり変革者であるべきだという使命感を抱く

4 おわりに

本研究は個別事例に基づく検討ではあるが、学生スタッフの語りをPAC分析およびSCATによって整理することで、留学生支援活動の経験が文化差への理解や支援者としての役割認識の形成などにつながる可能性の一端を示した。対象の拡充と分析の深化により、より具体的かつ汎用性のある探究につながることを期待される。今後は、本研究で扱った問いに加え、「学生スタッフの活動に対する動機、モチベーション、やりがい、信念の抽出と経験による変化」や、「他のスタッフとの関わりによる経験の蓄積」にも注目し、ピア・サポートを用いた留学生支援活動による学生スタッフへの教育的価値や教育効果について、検討を進めていく予定である。

本研究はJSPS科研費25K06314の助成を受けたものです。

2025年度 研究協議会報告

**2025 年度国立大学法人留学生指導研究協議会
兼 第 59 回大阪大学留学生教育・支援協議会**

主 題：「DX（デジタル・トランスフォーメーション）時代の留学生相談と指導」

日 時：2026 年 2 月 5 日（木）13：30～17：00

場 所：大阪大学吹田キャンパス銀杏会館 3 階ホール（対面）・オンライン併用

主 催：大阪大学国際機構国際教育交流センター

協 力：COISAN（国立大学留学生指導研究協議会）

次 第：（敬称略）

〔総司会 大阪大学国際機構 有川友子〕

挨 拶（13：30-13：40）

大阪大学グローバル教育担当理事・副学長 宮本陽一

I. 留学生受入れに関する施策

（対面＆オンライン参加可能）

1, 説 明（13：40-14：10）

「留学生交流に係る最新状況と令和 8 年度関連予算案について」

文部科学省高等教育局参事官（国際担当）付 留学生交流室 参事官補佐 宮川卓也

2, 質疑応答（14：10-14：20）

[Ⅱ. & Ⅲ. コーディネーター： 東北大学グローバルラーニングセンター 准教授 渡部留美]

Ⅱ. 講演 (14:30-15:00)

「留学生教育における DX の活用」

宮崎大学国際連携機構国際連携センター 准教授 伊藤健一

Ⅲ. 分科会「DX (デジタル・トランスフォーメーション) 時代の留学生相談と指導」(15:05-16:25)

A: 「DX 時代の留学生支援 (手続き・相談・カウンセリング)」

ファシリテーター：東京学芸大学 教職大学院 准教授 米本和弘
山梨大学 教育統括機構国際化推進センター 教授 伊藤孝恵

B: 「DX 時代の留学生教育 (授業・学修支援)」

ファシリテーター：茨城大学 グローバルエンゲージメントセンター 准教授 瀬尾匡輝
信州大学 グローバル化推進センター 准教授 仙石 祐

C: 「DX 時代の留学生交流 (イベント・地域連携)」

ファシリテーター：大阪大学 国際教育交流センター 准教授 岡本紗知
京都大学 学生総合支援機構 学生相談部門 講師 梁瀬まや

D: オンライン分科会

ファシリテーター：宮崎大学 国際連携機構国際連携センター 准教授 伊藤健一
金沢大学 理工研究域 准教授 岸田由美

Ⅲ. 各分科会からの報告と全体討論 (16:30-16:50)

閉会の挨拶 (16:50 - 17:00) 大阪大学国際機構長 有川友子

* 情報交換会: 17:30 ~ 19:00 銀杏会館 2 階ミネルバ

以上

おしゃべり会

COISAN オンライン交流会「おしゃべり会」

担当：宇塚 万里子・岡本 紗知

COISAN では、留学生相談・支援担当者同士が大学の垣根を越えて、気軽に情報交換・交流することを目的に、オンライン交流会を毎月 1 回、開催しています。

新しく留学生担当になって困っている方もベテランの方も昨今のグローバル化台風の中でいろいろな経験や苦勞をされていると思います。リソースが不足しがちな留学生関連業務で孤軍奮闘されている方も少なくないでしょう。そんなときは少し一休み、オンライン交流しませんか？他大学の例を聞くと、参考になったり、励まされたり、或いは、「へー、そなんだ。知らなかった。」など。入退室時間も、もちろん自由です。

テーマは、参加者の持ち寄ったその時々話題を話すフリートークの回とゲストスピーカーを招いたトピック型の回を交互に行っています。

開催日	トピック	参加者数
2025 年 4 月 23 日 (水)	フリートーク 教職員間の協働 / 留学生向け支援の予算確保	6 名
2025 年 5 月 28 日 (水)	「みんなで試行錯誤、国際共修！」 ゲストスピーカー：小嶋緑先生（東北大学）	13 名
2025 年 6 月 25 日 (水)	フリートーク	—

- ・参加者減への対応として、10 月より隔月でテーマを設けてゲストスピーカーによる話題提供を行うことにした
- ・3 月はおしゃべり会はなし
- ・ZOOM 無料アカウントの制限が厳しくなってきたため、2025 年度からは有料アカウントを利用

付 録

国立大学留学生指導研究協議会
COISAN
Council of International Student Advisors of National Universities

設 立 : 1996 年 5 月

設立の経緯 : 1990 年より国立大学に留学生センターが設置され始めました。これに伴い、留学生に対する相談・指導を担当する教員有志が、大学の枠を超えて相互に情報や意見を交換するとともに、留学生に関する研究を推進する必要性を痛感し、本協議会を設立するに至りました。

主 な 活 動 : 1. 研究会、セミナーの開催
 2. 会誌『留学生交流・指導研究』の発行（毎年 1 回。研究機関誌として発行）
 3. 会員名簿の作成
 4. 総会の開催
 5. その他本会の目的を達成するために必要な事業

U R L : <https://www.coisan.net/>

会 員 : 下記のように正会員と一般会員があります。どなたでも入会できます。

- (1) 正 会 員・・・国立大学法人留学生センター等の留学生教育・指導担当教員、または国立大学法人において留学生教育・指導に携わり、これらに関連する領域における研究を推進する方が正会員となることができます。非常勤講師、相談員等を含みます。
- (2) 一般会員・・・これ以外の方（学生や私立大学教職員等）も一般会員として入会し、投稿することができます。

入 会 : 後掲（152 ページ）

投 稿 : 後掲（154 ページ）

連 絡 先 : 〒 464-8601 名古屋市千種区不老町 C3-1
名古屋大学グローバル・エンゲージメントセンター ACS 内
国立大学留学生指導研究協議会 事務局（担当 坂田亜紀）
電話番号 : 052-788-6117 E-mail : info@coisan.org

*各地区の幹事が、地区ごとの取りまとめの役割を果たしています。詳細は COISAN 組織（151 ページ）をご参照ください。

国立大学留学生指導研究協議会 規約

Council of International Student Advisors of National Universities (略称 COISAN)

1. 名 称 本会は、国立大学留学生指導研究協議会（英語名：Council of International Student Advisors of National Universities、略称：COISAN）と称する。
2. 事務局 本会は、主たる事務局を愛知県名古屋市に置く。事務局の業務規程は別途定める。
3. 目 的 国立大学法人等における留学生教育・指導にかかわる諸問題について、情報・意見交換を行うとともに、これらに関する研究を推進することを通じて日本と海外諸国間の留学交流の促進と質的向上を図ることを目的とする。
4. 事業 本会は前条の目的を達成するために次の事業を行う。
 - (1) 研究会、セミナー等の開催
 - (2) 『留学生交流・指導研究』の発行
 - (3) 会員名簿の発行
 - (4) 総会の開催
 - (5) その他前条の目的を達成するために必要な事業

5. 会 員

(1) 会員の種類と資格及び会費年額

本会は正会員と一般会員、特別会員及びシニア会員により構成する。

- 1) 正会員は、次のいずれにも該当し、所定の手続きにより入会を認められた者とする。
 - ①国立大学法人留学生センター等の留学生教育・指導担当教員、または国立大学法人において留学生教育・指導に携わる者（非常勤講師、相談員等を含む）で、これらに関連する領域における研究を推進する者
 - ②本会の運営及び活動への参画の意志のある者
 - ③メーリングリストを介した情報・意見交換に参加する者
 - ④正会員 1 名の推薦を受けた者（もしくは入会希望理由を添えて申請した者）
 - ⑤会費年額 7,000 円を納める者
- 2) 一般会員は、次の①～③のいずれにも該当し、所定の手続きにより入会を認められた学生、教職員、研究者等とする。ただし、一般会員は幹事として本会の運営に関わることはできない。
 - ① 5.-(1)-1)-①に記載の資格を有しない者で、本会の趣旨に賛同し、本会の活動への参加を希望する者
 - ②本会正会員 1 名の推薦を受ける者（もしくは入会希望理由を添えて申請した者）
 - ③会費年額 7,000 円を納める者

-
- 3) 特別会員は、幹事会により特に必要と認められた者とする。会費等は別途定める。
 - 4) シニア会員は、次の①～③のいずれにも該当し、所定の手続きにより入会を認められた者とする。ただし、シニア会員は幹事として本会の運営に関わることはできない。
 - ①大学を退職し、常勤職についていない者
 - ② 55 歳以上の者
 - ③ COISAN 会員として 10 年以上在籍した者
 - ④本会の趣旨に賛同し、本会の活動への参加を希望する者
 - ⑤会費年額 3,000 円もしくは、5,000 円（ジャーナル冊子送付者）を納める者

(2) 入 会

本会への入会は、幹事会の議を経て代表幹事が承認しなければならない。

(3) 退 会

次の事項に該当する場合、幹事会の議を経て、代表幹事は当該会員を退会とすることができる。

- 1) 本人から退会の申し出があった時
- 2) 会費が未納である時
- 3) 本会の趣旨に著しく違反した時

6. 組織・運営

(1) 組 織

本会には、幹事会及び編集委員会を置く。

- 1) 幹事会は、地区幹事、特別幹事、監事、及び編集委員長で構成する。幹事会には代表幹事 1 名、副代表幹事 1 名以上を置く。
- 2) 編集委員会は、編集委員長 1 名及び編集委員で構成する。副委員長を置くことができる。
- 3) 代表幹事、副代表幹事、幹事、監事、及び編集委員長は総会において正会員の中から選出され、その任期は 2 年とする。但し、原則として継続 2 期を限度として、再任を妨げない。任期年度は 7 月 1 日から翌年 6 月末日までとする。

(2) 運 営

本会は年 1 回の総会を開催する。総会は正会員で構成し、役員の選出、活動計画、予算等本会運営にかかわる諸事項を決定する。

本会の運営は総会の決定に基づき、幹事会が行う。

代表幹事は会の運営を統括するとともに本会の代表となる。幹事はそれぞれ分担して本会の運営に当たる。

一般会員、シニア会員は、幹事として本会の運営に関わることはできない。

編集委員長は幹事会の決定に基づき編集委員会を組織し、研究機関誌の発行の企画・発刊に当たる。

本会の会計年度は 4 月 1 日から翌年 3 月末日までとする。

7. 規約の改正 本規約は 1996 年 5 月 24 日をもって発行する。

1997 年 6 月 6 日 一部改正

1999 年 6 月 11 日 一部改正

2005 年 3 月 11 日 一部改正

2007 年 6 月 21 日 一部改正

2012 年 6 月 22 日 一部改正

2018 年 6 月 26 日 一部改正

2019 年 7 月 11 日 一部改正

2023 年 6 月 30 日 一部改正

2024 年 6 月 27 日 一部改正

2025 年 6 月 5 日 一部改正

令和 7 年度（2025 年度）役員

-
- ◆代表幹事 有川 友子〈大阪大学〉（歴代代表幹事）
- ◆副代表幹事 渡部 留美〈東北大学〉
米本 和弘〈東京学芸大学（新）〉
- ◆地区幹事 北海道・東北地区 濱田 典子〈秋田大学〉
関東地区 小松 翠〈東京科学大学（新）〉
関東地区 趙 丹寧〈埼玉大学〉
中部地区 仙石 祐〈信州大学〉
中部地区 伊藤 孝恵〈山梨大学〉
近畿地区 梁瀬 まや〈京都大学〉
近畿地区 岡本 紗知〈大阪大学〉
中国・四国地区 大塚 薫〈高知大学（新）〉
九州・沖縄地区 伊藤 健一〈宮崎大学〉
- ◆特別幹事 瀬尾 匡輝〈茨城大学〉（HP 担当幹事・研究会担当幹事）
市島 佑起子〈鹿児島大学〉（コミュニケーション担当幹事）
- ◆監 事 岸田 由美〈金沢大学〉
服部 明子〈三重大学〉
- ◆編集委員長 和田 尚子〈名古屋大学〉
- ◆歴代代表幹事
- | | | |
|-----------------------|-------|------------|
| 2020 年 7 月～2022 年 6 月 | 中本 進一 | 埼玉大学教授 |
| 2016 年 7 月～2020 年 6 月 | 安 龍洙 | 茨城大学教授 |
| 2012 年 7 月～2016 年 6 月 | 有川 友子 | 大阪大学教授 |
| 2008 年 7 月～2012 年 6 月 | 門倉 正美 | 横浜国立大学名誉教授 |
| 2006 年 7 月～2008 年 6 月 | 瀬口 郁子 | 神戸大学名誉教授 |
| 2002 年 7 月～2006 年 6 月 | 檜原 暁 | 元東京大学教授 |
| 2000 年 7 月～2002 年 6 月 | 三宅 政子 | 元名古屋大学教授 |
| 1996 年 5 月～2000 年 6 月 | 古城 紀雄 | 大阪大学名誉教授 |

入 会 案 内

〈1〉 入会希望者は、入会申込書に必要事項を記入の上、入会申込をメールで事務局 (info@coisan.org) にお送りください。

〈2〉 入会が受理されると、その旨通知されます。

＊手続き書類を送りますので、年会費 7,000 円をお納めください。

〈3〉 入会者には最新の機関誌などの資料が送付されます。

〈4〉 以降、機関誌への投稿案内、総会、研究会などについては、電子メール及び国立大学留学生指導研究協議会のホームページでお知らせします。機関誌は、郵送で送付されます。

国立大学留学生指導研究協議会（COISAN）入会申込書

_____年____月____日

以下の通り入会を申し込みます。

(該当する□を■に変えて下さい)

会員の種類

☐ **正会員** 国立大学法人留学生センター等の留学生教育・指導担当教員、または国立大学法人において留学生教育・指導に携わる方（非常勤講師、相談員等を含む）

☐ **一般会員** 上記以外の方

(フリガナ) () 名 前	
勤務先・所属 (大学、学部・研究科、センター、団体名等)	☐ 教職員 (役職等:) ☐ 学生 (課程・学年:) ☐ その他 (役職等:)
連絡先 住所 (〒) _____ 電話: _____ E-mail: _____	
上記以外の連絡先があればご記入下さい	
研究分野 (30字以内)	
留学生と関わる分野 (30字以内)	
推薦者 氏名・連絡先(電子メール・電話)等	
※確認のためメール等で推薦者宛に連絡することがあります	
推薦者がいない場合は入会希望理由 (200文字程度)	

以下事務局記入欄 申し込み受付 年 月 日 受付者名 ()

会員No. ()

『留学生交流・指導研究』第29号投稿規程

〈投稿資格〉

1. 本誌に投稿できる者は、国立大学留学生指導研究協議会の会員でなければならない。なお、共著者に非会員を含むことはできるが、第一筆者は国立大学留学生指導研究協議会の会員とする。ただし、編集委員会が特に行う原稿執筆依頼は、非会員に対しても行うことができるものとする。また、同一著者による投稿の掲載が連続する場合は、原則連続2回を限度とする。

〈投稿内容、使用言語、投稿種目〉

2. 投稿内容：留学生指導、国際教育交流およびその周辺分野に関するもので、未発表のものに限る。他の学会誌などへの重複投稿はしないこと。ただし、口頭発表、プリント類はその限りではない。
3. 使用言語：日本語または英語。投稿者の原稿の言語が母語と異なる場合、提出原稿はネイティブチェック済みであること。
4. 投稿の種目を以下のとおりとする。投稿者は原稿に種目を明示しなければならない。
 - 1) 研究論文：留学生指導、国際教育交流およびその周辺分野について、過去の知見に加えるべき学術的意義のある独創的な研究成果が明確に述べられているもの。関連する領域における先行研究の内容が十分に把握され、研究課題が明確に設定されており、実証的・論理的に課題への解答が示されていることが必要。
 - 2) 研究ノート：留学生指導、国際教育交流およびその周辺分野について、新たな視点・着想、新規性のある事実の発見、前提的考察、先駆的発想、萌芽的研究課題の提起、古典の見直しなど、将来の優れた研究につながる可能性のある内容を、研究論文としての形式にとらわれずに自由に論を展開することができるもの。
 - 3) 実践報告・調査報告：実践報告においては、留学生指導、国際教育交流の現場における実践の内容が具体的かつ明示的に述べられており、その内容を広く公開して共有することの意義が明確なもの。調査報告においては、留学生指導、国際教育交流分野において、調査の目的が明確であり、調査の方法・分析・解釈が妥当であり、調査の結果に資料的価値が認められるもの。実践報告・調査報告いずれにおいても、単なる内容の報告に留まらず、的確な考察がなされていること。
 - 4) 書評：留学生指導、国際教育交流などに関する書籍の論評。
 - 5) その他：編集委員会が特に依頼したもの（特集、特別寄稿、講演など）。

〈倫理ガイドライン〉

5. 投稿に際しては以下の倫理を守ること。
 - 1) 研究の実施および研究成果の公表について、調査対象者に説明し、同意を得ている。
 - 2) 個人のプライバシーに配慮し、個人情報 that 特定・類推されることがないよう、細心の注意を払うこと。また、可能な限り、論文公表の同意を得ること。
 - 3) 特定の機関を対象とした研究では、該当機関の長に論文公表についての同意を得ること。
 - 4) 倫理的な配慮を行っていることを本文中に明記すること。

6. 書式：A4 横書き、和文 43 字×30 行（英文 44 行）とし、ファイル形式は PDF ファイルとする。カラーの図、表、写真などは、あらかじめグレースケールに変換すること。
7. 分量：編集委員会が特に指定した場合を除き、研究論文、研究ノート、実践・調査報告は 15 ページ以内（図、表、写真などを含める、要旨は除く）、書評は 2 ページ以内とする。書評は冒頭に、①書名、②著者名、③出版社名、④出版年、⑤頁数、⑥定価、⑦氏名、⑧所属を示す。洋書の場合も和書に準じるが、書名はイタリック体で示すこと。
8. 要旨・キーワード：研究論文、研究ノート、実践報告・調査報告においては、日本語の場合 400 字程度、英語の場合 200 語程度の要旨を添付し、5 つ以内でキーワードを添付する。なお、要旨は投稿連絡票にのみ記載し、原稿には記載しないこと。
9. 本文中の固有名詞：執筆者が特定される地名や大学名等は、伏せ字（例：A 県、α 大学）にして記すること。なお、原稿の内容上必要不可欠な地名や大学名等は、編集委員会で審議し査読後、倫理ガイドラインを守った上で実名での表記を認める場合もある。
10. 本文中の引用元の表記：著者名が多数の場合も、全ての著者名を記すこととする（例：加賀美・横田・坪井・工藤（2012））。ただし、同じ文献の引用が複数回ある場合の文中引用では、初出の際は全著者の姓を記し、2 回目以降の引用では第 3 著者までの姓のみ記載し、他の著者は他として省略することとする（例：加賀美・横田・坪井他（2012））。
11. 引用・参考文献は項目を別に設け、本文中で言及したものが過不足なく記されていること。一覧を文末にまとめ、和文単行本の場合は：著者名（刊行年）『書名』発行書店名とし、洋書単行本の場合は：Author 姓、名のイニシャル（Publication year）Title イタリック体、Publisher とする。和雑誌の場合は：著者名（刊行年）「表題」『雑誌名』巻数号数、ページの始めと終わりとし、洋雑誌の場合は：Author 姓、名のイニシャル（Publication year）“Title”, Journal title イタリック体, Volume, Number, Pages とする。ウェブサイトからの引用資料の場合は：資料提供機関等（掲載年）「タイトル」URL（閲覧日）とする。

著者名が多数の場合も、全ての著者名を記すこととする。日本語文献と外国語文献とを、それぞれまとめて、日本語文献、外国語文献の順に記載し、日本語文献は第一著者の姓の五十音順に、外国語文献は第一著者の姓のアルファベット順に配列する。日本語訳書を引用した場合は、日本語文献にまとめる。ウェブサイトからの引用資料は、日本語のサイトを日本語文献にまとめ、外国語のサイトを外国語文献にまとめる。

なお、執筆者自身の文献を引用する際に、「拙書」「拙稿」など執筆者が特定される表現を避けること。伏せ字は使用しないこと。

例）〔引用・参考文献〕

加賀美常美代・横田雅弘・坪井健・工藤和宏（2012）『多文化社会の偏見・差別—形成のメカニズムと低減のための教育—』明石書店

高松里（2006）「国際交流学生サークル活動への教育的サポート：九州大学国際親善会の活動と会への支援」『九州大学留学生センター紀要』第 15 巻、pp.67-74

日本語教育振興協会（2006）「日本語教育機関の概況」<http://www.nisshinkyo.org/j147>.

pdf (2016 年 12 月 20 日閲覧)

ホール・エドワード (日高敏隆・佐藤信行訳) (1970) 『かくれた次元』 みすず書房 (Hall, E. (1966) *The Hidden Dimension*, Anchor Books)

Piller I (2010) *Intercultural Communication: A Critical Introduction*, Edinburgh University Press

Schwartz SJ, Unger JB, Zamboanga BL, Szapocznik J (2010) "Rethinking the Concept of Acculturation Implications for Theory and Research", *American Psychologist*, vol.65, No.4, pp.237-251

Zhou Y, Jindal-Snape D, Topping K, Todman J (2008) "Theoretical Models of Culture Shock and Adaptation in International Students in Higher Education", *Students in Higher Education*, vol. 33, No.1, pp.63-75

〈投稿の採否〉

12. 投稿原稿掲載の採否は、種目 1) ～ 3) については、査読を経て、編集委員会で審議し、種目 4) 5) については、編集委員会で審議し、決定する。審議の結果、内容、構成、表現等が不適切と判断された場合は、投稿者へ原稿の修正および投稿種目の変更を依頼する場合がある。

〈校正〉

13. 投稿者による校正は初稿までとする。校正においては、内容的な修正は原則として認めない。

〈著作権〉

14. 『留学生交流・指導研究』に掲載された原稿の著作権は、国立大学留学生指導研究協議会に属するものとする。著者は、掲載された論文の電子化とその公開を承諾するものとする。

〈抜刷り〉

15. 抜刷りを希望する投稿者は、完成原稿提出時に編集委員長が指定した方法に従う。抜刷りに要する費用は、投稿者が全額負担する。

〈投稿申込み、原稿締切〉

16. 投稿予定者は毎年 7 月 15 日までに表題および投稿種目を明示して、編集委員長あてに e-mail で投稿を申し込むこと。その上で、毎年 8 月 31 日までに原稿 (PDF ファイル) ・投稿連絡票・投稿チェックリストを添付し、編集委員長あてに e-mail で送信すること。投稿連絡票および投稿チェックリスト、論文の書式は、国立大学留学生指導研究協議会のホームページよりダウンロードして使用する。

なお、要旨は投稿連絡票にのみ記載し、原稿には記載しないこと。また、PDF ファイルのプロパティなどに投稿者の個人情報が残らないよう注意すること。

(国立大学留学生指導研究協議会ホームページ)

<https://www.coisan.net/>

〈投稿申込み先、原稿送付先〉

e-mail : wada.hisako.w3@f.mail.nagoya-u.ac.jp

(COISAN ジャーナル編集委員長 和田)

〈名 称〉

1. 本誌は国立大学留学生指導研究協議会（以下「COISAN」と称す）機関誌であり、原則として年一回発行する。

〈掲載記事の種別〉

2. 本誌は留学生指導及び国際教育交流にかかわる研究論文、実践報告・調査報告、書評、その他関連記事を掲載する。

それぞれの内容については以下のとおりとする。

- 1) 研究論文：留学生指導、国際教育交流およびその周辺分野について、過去の知見に加えるべき学術的意義のある独創的な研究成果が明確に述べられているもの。関連する領域における先行研究の内容が十分に把握され、研究課題が明確に設定されており、実証的・論理的に課題への解答が示されていることが必要。
- 2) 研究ノート：留学生指導、国際教育交流およびその周辺分野について、新たな視点・着想、新規性のある事実の発見、前提的考察、先駆的発想、萌芽的研究課題の提起、古典の見直しなど、将来の優れた研究につながる可能性のある内容を、研究論文としての形式にとらわれずに自由に論を展開することができるもの。
- 3) 実践報告・調査報告：実践報告においては、留学生指導、国際教育交流の現場における実践の内容が具体的かつ明示的に述べられており、その内容を広く公開して共有することの意義が明確なもの。調査報告においては、留学生指導、国際教育交流分野において、調査の目的が明確であり、調査の方法・分析・解釈が妥当であり、調査の結果に資料的価値が認められるもの。実践報告・調査報告いずれにおいても、単なる内容の報告に留まらず、的確な考察がなされていること。
- 4) 書評：留学生指導、国際教育交流などに関する書籍の論評。
- 5) その他：編集委員会が特に依頼したもの（特集、特別寄稿、講演など）。

〈採否の決定〉

3. 前条 1) ～ 3) 項の投稿原稿の掲載の採否は、審査員会の査読を経て、編集委員会で審議し決定する。4)、5) については、編集委員会で審議し決定する。

〈校 正〉

4. 執筆者による校正は初稿までとする。その場合、内容的な修正は原則的に認めない。

〈抜 き 刷 り〉

5. 抜き刷りを希望する投稿者は完成原稿提出時に編集委員長に依頼する。抜き刷りに要する費用は投稿者が全額負担する。

以上

Journal of International Student Advisors and Educators

No. 29 Posting Regulations

〈Qualification for Posting〉

1. Those who post this Journal must be members of the Council of International Student Advisors of National Universities. Non-members can be included as co-authors, but the primary author must be a member of the Council of International Student Advisors of National Universities.

However, manuscript orders, especially by the editorial committee, can be ordered for non-members. Consecutive posts by the same author are limited to 2 posts under normal circumstances.

〈Contents Posted, Languages Used, Categories〉

2. Content Posted:

Content posted must be related to Advice to International Students, International Education Exchange or their related fields, and must be as-of-yet-unannounced. Duplicate postings to other academic conference journals are prohibited, provided that oral presentations and handouts are not limited to this.

3. Languages Used:

Japanese or English. When the languages of posters' manuscripts are different from their native languages, the submitted manuscripts must be checked by a native speaker.

4. The categories to be posted are as follows. Posters must clearly describe the categories of their manuscripts.

- 1) Research Article:

The Research Article is required to clearly describe unique study outcomes with academic significance related to Advice to International Students, International Education Exchange of their related fields, which should be added to existing knowledge. It is necessary that preceding studies related to the field are well understood, research agenda is clearly set and the answers to the agenda are shown empirically and logically.

- 2) Research Note:

In the Research Note, contents which lead to future excellence in Advice to International Students, International Education Exchange including fresh perspectives/ideas, discovery of novel facts, prerequisite considerations, pioneering ideas, introduction of budding research agendas and re-examination of previous studies can be freely developed regardless of the format of the Research Article.

- 3) Practice Report/Research Report:

In the Practice Report, the contents at the sites of the Advice to International Students and

International Education Exchange must be described concretely and expressly, and must have clear significance to disclose and share widely. In the Research Report, it is required that the purpose of the research is clear, the methods of research, analysis and interpretation are reasonable, and the findings of the research must be recognized to have material value in the Advice to International Students and International Education Exchange fields. Either Practice Reports or Research Reports are not just reports but accurate considerations must be given.

4) A Book Review:

A Book Review is a commentary on the Advice to International Students and International Education Exchange, etc.

5) Others:

Specially requested by the editorial committee. (special issues, special contributions, lectures, etc.)

〈Ethic Guidelines〉

5. Observe the following ethics when posting.

- 1) Explain your procedure to research subjects and obtain their consent regarding implementation of research and publication of results.
- 2) Take due consideration for personal privacy and pay careful attention so that personal information cannot be identified or inferred. Prior to publication, obtain consent from parties involved as much as possible.
- 3) For research targeting specific institutions, obtain consent from the head(s) of those institutions prior to publication.
- 4) Clearly state on your manuscripts that ethical consideration has been taken.

〈Manuscripts〉

6. Format:

A4 Horizontal writing

Japanese characters 43x30 lines (English 44 lines)

File format: PDF file

Colored figures, lists and pictures will be converted to grayscale.

7. Volume:

The Research Articles, Research Notes and Practice/Research Reports must be under 15 pages (including figures, lists, pictures, etc.; excluding the abstract), and Book Reviews under 2 pages, except when designated by the editorial committee. At the beginning of a book review, indicate 1. Book title, 2. Author's name, 3. Publisher's name 4. Year of publication, 5. No. of pages, 6. Fixed price, 7. Reviewer's name 8. Reviewer's university. The same is applied to Western books, but titles must be written in italics.

8. Summary/Keywords:

Attach a summary of about 400 characters for Japanese and about 200 words for English to Research Articles, Research Notes and Practice/Research Reports. Also Attach 5 or less keywords. Write summaries only on the post contact form but not on the manuscript.

9. Proper nouns in the manuscript: Names of places or universities that could possibly specify the author must be substituted with letters/symbols (e.g., prefecture A, university α). However, in some cases such that the use of proper nouns is unavoidable given the content of the manuscript, after proper deliberation and peer review by the editorial committee, the use of real names may be permitted in accordance with the ethical guidelines.

10. Citations: All the authors' names must be listed (example: Kagami, Yokota, Tsuboi, Kudo (2012)) regardless of the number of the authors. However, if the same document source is cited more than once, the surnames of ALL authors must be listed ONLY when they first appear, and only the surnames up to the third author are listed in the second and subsequent citations, the rest of authors being omitted. (Example: Kagami, Yokota, Tsuboi et al. (2012)).

11. Quotations and reference items are separately listed. All quotations and references used in the manuscript must be included in the list, without excess or deficiency, in the following orders.

The lists are summarized at the end of the manuscript.

Single Japanese research books: Write the Author's name (Publication year), 『Book title』 and Issuing bookstore's name.

Single Western research books: Write Author's initials of the surname and first name, (Publication year), 'Title', and Publisher.

Japanese journals: Author's name, (publication year), 「Title」, 『Name of journal』, Issue no., Relevant pages.

Western journals: Write Author's initials of the surname and first name, (Publication year), 'Title', *Journal title*, Volume, Number, Pages.

In the case of materials quoted from a website, include the name of the source, (year of posting), 「Title」, URL, (Date of access).

All the authors' names must be listed regardless of the number of the authors. Summarize Japanese and foreign literatures, respectively, and list them in the order of first Japanese and then foreign literature. Japanese literature is arranged in the Japanese alphabetical order by the surnames of the primary authors, and foreign literature is in the alphabetical order by the surnames of the primary authors. When a translation into Japanese is quoted, summarize it as Japanese literature. When materials are quoted from websites, summarize the material quoted from Japanese websites as Japanese literature and from foreign sites as foreign literature, respectively.

Avoid using phrases like 'my research book' or 'my research manuscript' when quoting from a

writer's own literature in order to avoid revealing the author's identity. Do not use ciphers.

Example

[Quotation/Reference Literature]

加賀美常美代・横田雅弘・坪井健・工藤和宏（2012）『多文化社会の偏見・差別—形成のメカニズムと低減のための教育—』明石書店

高松里（2006）「国際交流学生サークル活動への教育的サポート：九州大学国際親善会の活動と会への支援」『九州大学留学生センター紀要』第15巻、pp.67-74

日本語教育振興協会（2006）「日本語教育機関の概況」

<http://www.nisshinkyō.org/j147.pdf>（2016年12月20日閲覧）

ホール・エドワード（日高敏隆・佐藤信行訳）（1970）『かくれた次元』みすず書房

（Hall, E.（1966）*The Hidden Dimension*, Anchor Books）

Piller I（2010）*Intercultural Communication: A Critical Introduction*, Edinburgh University Press

Schwartz SJ, Unger JB, Zamboanga BL, Szapocznik J（2010）“Rethinking the Concept of Acculturation Implications for Theory and Research”, *American Psychologist*, vol.65, No.4, pp.237-251

Zhou Y, Jindal-Snape D, Topping K, Todman J（2008）“Theoretical Models of Culture Shock and Adaptation in International Students in Higher Education”, *Students in Higher Education*, vol. 33, No.1, pp.63-75

〈Acceptance or Rejection of Posts〉

12. Acceptance or Rejection of posted manuscripts is decided by deliberation among the editorial committee after peer review for categories 1) -3) and by deliberation among the editorial committee for 4)-5).

As a result of deliberation, if it is determined that contents, structure, expressions etc. are inappropriate, posters may be requested to make corrections and/or change their category.

〈Proofreading〉

13. Proofreading by a poster is limited to the first draft. After the proofreading, content changes are not allowed under normal circumstances.

〈Copyrights〉

14. Copyrights of the manuscripts published on the Journal of International Student Advisors and Educators belong to Council of International Student Advisors of National Universities. By publishing in the journal, authors agree to allow COISAN to publish their article online.

〈Offprint〉

15. Posters who wish to offprint shall follow the method designated by the chief editor at the time of manuscript completion. Full cost for offprint is borne by the posters.

〈Posting Application and Manuscript Deadline Dates〉

16. Those who plan to post should apply to the chief editor by e-mail, clearly stating their titles

and posting categories by July 15th of that year.

Then send their manuscripts (in PDF format), posting contact forms and posting check lists to the chief editor via email by August 31st. Download the posting contact form, posting check list and format from the homepage of the Council of International Student Advisors of National Universities.

Write the summary only on the posting contact form, but not on the manuscripts. Be careful not to leave the poster's personal information on the PDF properties, etc.

(Homepage of the Council of International Student Advisors of National Universities)

<https://www.coisan.net/>

〈Where to apply postings to/ Where manuscripts are sent to〉 _____

e-mail: wada.hisako.w3@f.mail.nagoya-u.ac.jp

(Professor WADA, Chief Editor of the Journal of COISAN)

Editing Regulations for 『Journal of International Student Advisors and Educators』

〈Name〉

1. This journal is the Journal of International Student Advisors and Educators (hereinafter referred to as 'COISAN'), and is published once a year under normal circumstances.

〈Categories of Articles Published〉

2. The Research Articles, Practical Reports, Research Reports, Book Reviews and others related to Advice for International Students and International Exchange are published in the Journal. Each content is as follows.

1) Research Article:

The Research Article is required to clearly describe unique study outcomes with academic significance related to Advice to International Students, International Education Exchange of their related fields, which should be added to existing knowledge. It is necessary that preceding studies related to the field are well understood, research agenda is clearly set and the answers to the agenda are shown empirically and logically.

2) Research Note:

In the Research Note, contents which lead to future excellence in Advice to International Students, International Education Exchange including fresh perspectives/ideas, discovery of novel facts, prerequisite considerations, pioneering ideas, introduction of budding research agendas and re-examination of previous studies can be freely developed regardless of the format of the Research Article.

3) Practice Report/Research Report:

In the Practice Report, the contents at the sites of the Advice to International Students and International Education Exchange must be described concretely and expressly, and must have clear significance to disclose and share widely. In the Research Report, it is required that the purpose of the research is clear, the methods of research, analysis and interpretation are reasonable, and the findings of the research must be recognized to have material value in the Advice to International Students and International Education Exchange fields. Either Practice Reports or Research Reports are not just reports but accurate considerations must be given.

4) A Book Review:

A Book Review is a commentary on the Advice to International Students and International Education Exchange, etc.

5) Others:

Specially requested by the editorial committee. (special issues, special contributions,

lectures, etc.)

〈Decision of Acceptance and Reject〉

3. Acceptance or Rejection of posted manuscripts is decided by deliberation among the editorial committee after peer review for categories 1) -3) and by deliberation among the editorial committee for 4)-5).

〈Proofreading〉

4. Proofreading by a poster is limited to the first draft. Content changes are not allowed under normal circumstances.

〈Offprint〉

5. Posters who wish to offprint shall request the chief editor at the time of manuscript completion. Full cost for offprint is borne by the posters.

編集後記

COISAN会員の皆様に『留学生交流・指導研究』第28号をお届けいたします。本号では、特別寄稿、研究論文、研究ノート、実践報告、書評と、多様な研究成果を収録することができました。また、第14回留学生交流・指導研究会および2025年度研究協議会の記録も掲載しております。年々充実する各種活動の記録を通して、COISANの蓄積を広く共有するアーカイブとしての役割も果たしていければ幸いです。

近年、留学生を取り巻く環境は大きく変化しており、留学生交流・指導・支援のあり方にも、より多角的な視点が求められています。そうした中、本誌が研究成果の共有のみならず、COISAN会員の多様な分野からの知見を結び付け、新たな実践や学際的研究の連携を生み出す場となることを願っています。

ご投稿くださった執筆者の皆様、ご寄稿いただいた執筆者の皆様、そして丁寧かつ真摯に査読をご担当くださった皆様に、心より御礼申し上げます。今後とも『留学生交流・指導研究』への積極的なご投稿をお待ちしております。
(服部)

ISSN1343-4683

留学生交流・指導研究 Volume 28

非売品

編集 国立大学留学生指導研究協議会
『留学生交流・指導研究』編集委員会
和田 尚子 (委員長：名古屋大学)、大塚 薫 (高知大学)、河合 淳子 (京都大学)、
仙石 祐 (信州大学)、服部 明子 (三重大学)、堀尾 佳以 (宇都宮大学)

発行日 2026年3月31日

発行 国立大学留学生指導研究協議会

問合先 〒464-8601 名古屋市千種区不老町 C3-1
名古屋大学グローバル・エンゲージメントセンター ACS 内
Tel : 052-788-6117
e-mail : info@coisan.org

URL <https://www.coisan.net/>

制作 株式会社 コームラ e-mail : main@kohmura.co.jp

Journal of International Student Advisors and Educators

Volume 28 / 2025

Foreword	ARIKAWA Tomoko	5
■ Featured Topic		
· Advancing International Student Admission and Support at National Universities in Japan: Lessons on Education and Career Pathways from Four Universities ITO Kenichi, SEO Masaki, MURAKAMI Kazuhiro, YONEMOTO Kazuhiro		9
■ Articles		
[Research Article]		
· University Students' Perceptions of a Short-Term Korean Language Training Program: A Comparison of Post-Program Reports Before, During, and After the COVID-19 Pandemic ISHINABE Hiroshi, AN Young Su, MATSUDA Yuichi		29
· How Do Chinese International Students Choose to Work in Japan? : A Retrospective Human-Centered Analysis SATO Yukiyo, MOMMA Yukiko		43
[Research Note]		
· Reframing Support for International Students: Based on the Changes in the International Student Policy ONISHI Akiko		57
[Practice Report]		
· The Role and Challenges of Annual Enrollment Surveys of International Students in Japanese Higher Education Institutions AN Tingting		71
· The Use of Slack in International Student Dormitory Management: A Practical Report on Complementing Face-to-Face Support ICHISHIMA Yukiko		85
· L1 Japanese University Students' Engagement and Perceptions in Rewriting a Notice at an Evacuation Center into "Easy Japanese": Through Collaborative Practice with International Students OKANO Yasuko		99
[Book Review]		
· <i>International Student Advising: How to Support Students' Learning, Daily Life and Mental Health</i> by YOKOTA Masahiro & SHIRATSUCHI Satomi (Nakanishiya Shuppan, 2004, 376 pages, 3,500 yen + tax) MURAYAMA Kanae		115
Summary in English		119
■ Report		
[Report on the 14 th COISAN Research Conference]		
· International Students' Learning Experiences and Challenges in Internships MOMMA Yukiko, WANG Jie		131
· International Student Acceptance in Japanese Higher Education: Understanding the Shift in Rationale and Its Impact ONISHI Akiko		133
· Experiences and Learning of Student Staff Engaged in International Student Support Services: A Qualitative Case Study Using PAC Analysis and SCAT WATANABE Rumi, ICHISHIMA Yukiko		135
Report of COISAN Symposium 2025		139
Online Talk Session		143
APPENDIX		145
The Editor's Note		165